

ママ目線の地元情報が満載! 『えがおレポート』



おすすめの公園、地域のイベント、毎日のちょっと気になるあれこれ…地元のママだから知っている逗子の子育て情報、もっと知りたいな。教えてシズオ!

最近、おもしろいホームページを見つけたの! 『えがおレポート』っていうんだけど、逗子の子育て情報がたくさん紹介されていて、ついつい読み込んでしまった。逗子市役所の子育てポータルサイト『えがお』に掲載されているんだけど、どんな人が書いているのかな?



久木の Yさん

『えがおレポート』は、逗子で子育て中のママたちがレポーターとして取材・記事作成を行っているんだよ。記事のテーマもママたちのアイデアによるものだから、子育て中に本当に知りたい情報が厳選されているんだ。



コロナ禍でママ友と会って情報交換する機会が減ったから、ホームページで手軽に地元の情報を入手できるのは助かるよ。子育ての合間にさくっと読める長さなのもいいね。



「お出かけ」「施設」「イベント」「公園」などカテゴリ別に記事を探すこともできるよ。



私のお気に入り「公園」!

家の近くの公園しか行ったことがなかったけど、ちょっと足を伸ばせば素敵な公園がまだまだたくさんあることがわかって、子どもとお出かけが楽しくなったよ。



レポートはほぼ毎月更新されるから、定期的にチェックしてみてね。



<http://www.city.zushi.kanagawa.jp/egao>

えがおレポートのバックナンバーはこちらのQRコードから

フレッシュスタッフのご紹介♪

上の子を妊娠してから専業主婦として過ごして来ましたが、コロナ禍で働き方について考える機会があり在宅で仕事ができるようにデザインソフトの使い方を学びました。これを活かさないかと思っていた時に、『陽だまり』編集募集を見たママ友が応募してみても?とってくれたことがきっかけで今に至ります。実際に活動をしてみて、『陽だまり』制作の裏側が見えスタッフの温かな心遣いがギュッと詰まっているんだなと改めて体感しました。私も『陽だまり』スタッフの一員として逗子で子育てをする方々に貢献していけたらと思います。(カフェイン中毒マン)

最初に手にした『陽だまり』の記事に惹かれ、また読みたいなど思っていた時に募集を知りました。当時娘は5ヶ月。子どもにかかる時間が大半ですが自分の時間も大切にしながら自分自身にできることを探していました。赤ちゃんがいても大丈夫か最初は不安でしたが、陽だまりにいるママさん達は明るくて優しい方ばかり。読むとホッとするそんな『陽だまり』をお届けしたいです。(爆食いケーキマン)

■ボランティアスタッフ募集

市と社会福祉協議会で発行・運営する子育て応援紙『陽だまり』と子育てポータルサイトえがお『えがおレポート』は、逗子のママ達の手で作られています。一緒に楽しく活動してみませんか? *若干の謝礼あり。

▶『陽だまり』編集スタッフ: 子育て応援紙『陽だまり』の制作。各号2~3回の編集会議に参加、自宅でメールや原稿チェック、企画案出し・取材・編集などを分担。年4回発行。

▶「えがおレポート」: 逗子市子育てポータルサイトえがお『えがおレポート』のレポーター。年2回程度の会議に参加、年3~4本の取材と原稿作成。

任期: 2022年4月~2023年3月

募集人数: 若干名

対象: 子育て中の市内在住者で、パソコンの基本的な操作ができる人(『陽だまり』はデザインできると尚可)
*性別不問、子ども連れ参加可。

応募方法: 3月20日(日)までに①住所②氏名③電話番号④Eメールアドレス⑤子どもの年齢⑥応募のきっかけ⑦希望職種(『陽だまり』または「えがおレポート」)を、Eメールで子育て支援課へ。市ホームページからも応募可。追って面接日を連絡します。MAIL: kosodate@city.zushi.lg.jp

子育て応援紙陽だまり ボランティアスタッフ 逗子



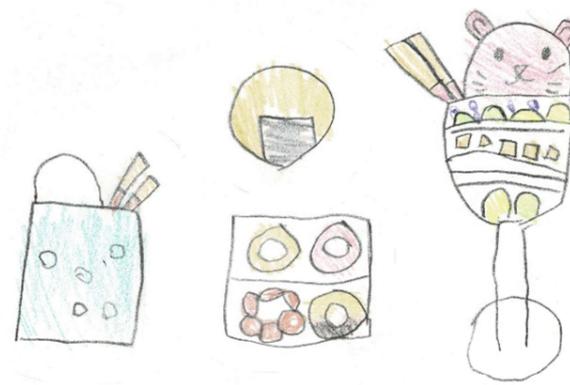
陽だまり

FREE PAPER

逗子で楽しい子育てを
みんなで楽しんだ
創刊20周年
逗子のママたちが
制作しています

【特集】

思ってたのと違う!
子育てリアルエピソード



池子のHちゃん(6才)が描いてくれました



~地域でご活躍の方々から 子育て応援メッセージ~

明星大学教育学部教育学科教授

星山麻木

子育てをしていると急にひとりぼっちだと感じたり、悲しくなったりすることはありませんか?自分はダメだと思ったり、子どもは悪くないとわかっていても子どもにイライラしたり、自分の情緒が安定しないこともあるかもしれません。でもご安心ください。人間である限り、一人で完璧に子育てできる親なんて、最初からいないのです。人間は一人になると不安になるようにできています。だからこそ私たちは群れをつくり、助け合って子育てをしたくなるというわけです。子育て期に本当に必要なのは、温かな仲間。逗子は自然や温かな人の輪があるところです。心の中のコップが空っぽでは子どもに愛情を注ぐことは辛くなります。そんなときは豊かな自然や人に沢山注いでもらってください。そして、皆で子どもたちのコップに豊かな愛情を注いでいきましょう。もし淋しい人がいたとしても、皆で注げたら、とても素敵なことだと思います。

<プロフィール>
保健学博士。日本音楽療法学会認定音楽療法士。
逗子市「子育てサポーター育成講座」講師。映画『星の国から孫ふたり』監修。
NHK Eテレ『すくすく子育て』、NHK Eテレ ハートネットTV『発達障害の子どもたちとともに』監修出演。

▶問い合わせ先
社会福祉法人 逗子市社会福祉協議会 地域福祉推進係
〒249-0005 逗子市桜山5-32-1(福祉会館内)
HP <http://zushi-shakyo.com/>
TEL 046-873-8011 FAX 046-872-2519
Eメール sunny@zushi-shakyo.com

▶発行元
逗子市教育部 子育て支援課
〒249-8686 逗子市逗子5-2-16
HP <http://www.city.zushi.kanagawa.jp/>
TEL 046-873-1111(代表)
FAX 046-873-4520

